

ここでは、次の MENU シートに配置されている変換オプションについて説明します。

【モード設定】<sup>1</sup>

- 通常 『テクノス V2』へ取り込む形式への変換
- 上出来専用 上出来 BEST へ取り込む形式への変換

【取り込むデータのレベル選択】<sup>1</sup>

変換したい(『テクノス V2』へ取り込みたい)データの階層を指定します。

なお、「共通仮設費積上げ項目対応」を指定すると該当する積み上げ項目が存在する場合、内訳表下部に専用の工種行が作成されその下層に共通仮設費の積上げ分が計上されます。「諸経費条件設定」後はこれらの単価表等をコピーして活用できます。

さらに「処分費の集計丸め調整対応」を指定すると、岐阜県の処分費集計方式において、工種単位で丸め(千円未満切り捨て)た結果を集計する際の丸め状況を示すコメント行が追加されます。なお、本丸め方式を使用するためには工事を作成する際、初期値テンプレート設定において基準「(専用処分費集計)」を指定します。

【帳票番号が同一の単価表の参照化(名称規格は考慮しない)】

帳票番号が同一であっても名称と規格が異なれば同一の単価表であるとは断言できないため、参照化されません。ただし、本オプションを有効にすれば名称および規格の同一性判断を省略し、帳票番号のみで参照化します。

【注意】名称、規格が異なる単価表が参照化されると参照化された単価表の名称および規格はいずれかの単価表のものに統一されます。

【帳票番号 WB5 行を単価表形式で出力(通常は OFF、施工パッケージ形式)】

ツールを起動すると初期状態では帳票番号にある WB5 または SB5 コードを元に施工パッケージ行であることを判断します。施工パッケージ行も単価表として取り扱いたい場合のみこのオプションを有効にします。

<sup>1</sup> 項目の設定状態はツール終了後も維持されます。